



和源朗詠集下

雜

風

雲

晴

曉

松

竹

草

鶴

猿

管

文詞

酒

山

付山

水

付漁

禁中

古京

付舞

付遣

下

雜



故宮 付故宅

田家

佛事

眺望

庚申

丞相 付執政

仙家 付道士隱倫

隣家

僧

餞別

帝王 付法皇

將軍

山家

山寺

閑居

行旅

親王 付王孫

刺史

詠史

遊女

懷舊

祝

白

王昭君

老人

述懷

戀

妓女

交友

慶賀

無常

史記あり
 湘浦の海
 竹森帝の所
 是女英の故事
 吹簫の地
 山遠雲埋
 行客跡
 松寒風破
 旅人夢
 盡日望雲
 心不繫
 有時見月
 夜方閑

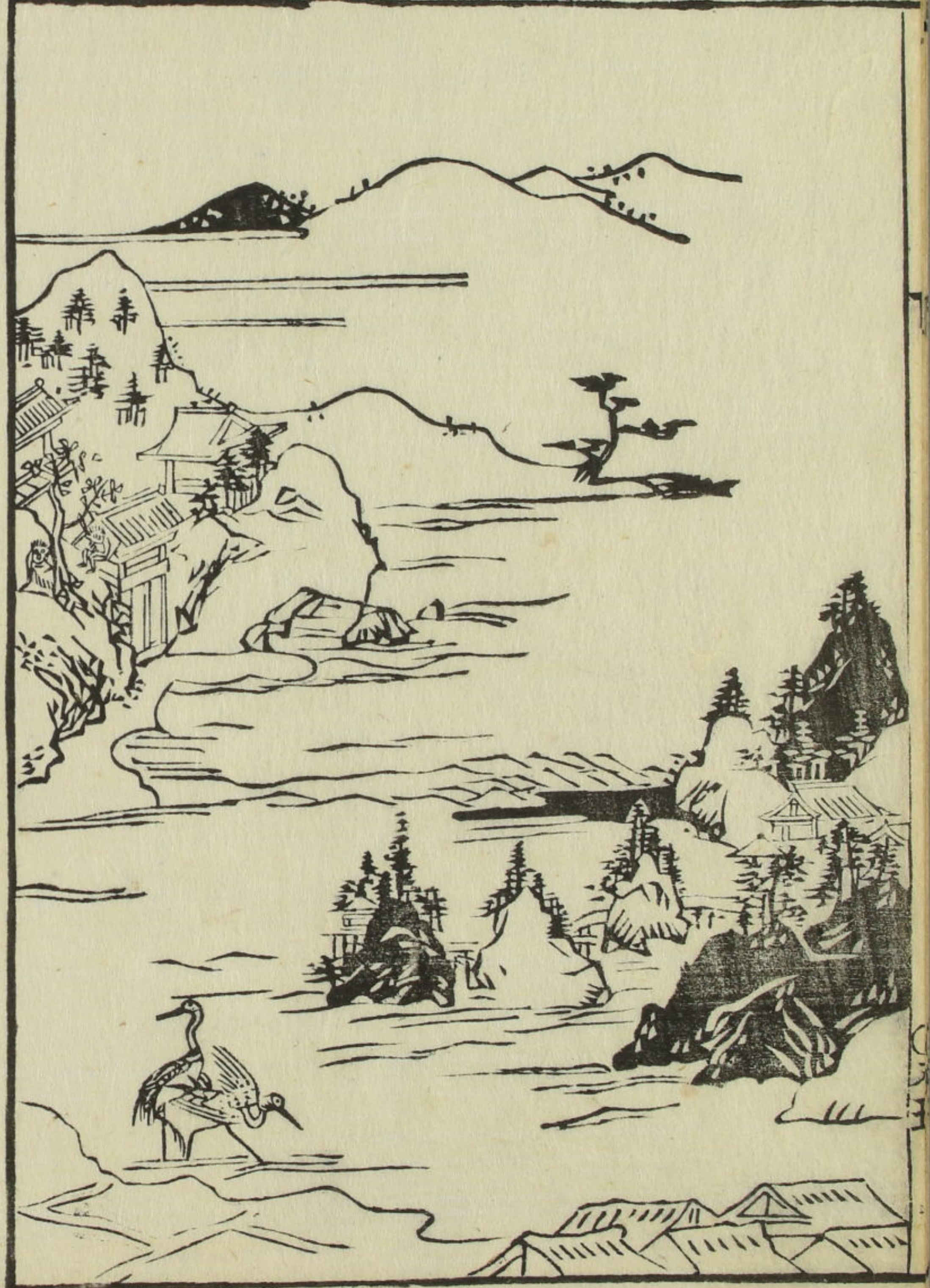
吹簫之地
 竹斑湘浦雲凝鼓瑟之蹤鳳去秦臺月老
 山遠雲埋行客跡松寒風破旅人夢
 盡日望雲心不繫有時見月夜方閑
 張讀
 元稹

漢皓避秦之朝望礙孤峯之月陶朱辭越
 之暮眼混五湖之煙
 暫借崎嶇非戴石空偷峻嶮喧生松
 漢帝龍顏迷處淮主雞翔失留連
 煙消門外青山近露重窓前綠竹低

漢皓避秦之朝望礙孤峯之月陶朱辭越
 之暮眼混五湖之煙
 暫借崎嶇非戴石空偷峻嶮喧生松
 漢帝龍顏迷處淮主雞翔失留連
 煙消門外青山近露重窓前綠竹低
 鄭師冊

日のまゝに飽能
 下なるむらび
 切多れとて漢ハ
 天の月を以て
 命の命の花
 五徳深淵とて
 わる海を以て
 むくことむらり

遥か伊勢の巻
 心悲しくわら
 色依(か)る處の巻
 猿のまゝの



湯所の巻に 成字 加巴子之江の流に 巫

夕夜(暁)之
 峽とつりか
 鳴金三声聞者涙
 活衣云々 柳渡右
 舟居 甜のの
 雁の 南の
 畜人の 柳の
 人燈ののの
 柳の 柳の
 柳の 柳の

同李陵之人胡但見異類似屈原之在楚
 衆人皆醉
 皇甫昔

聲來枕上千年鶴影落盃中五老峯白
 清咲數聲松下鶴寒光一點竹間燈
 雙舞庭前花落處數聲池上月明時鶴歸
 舊里丁令威之詞可聽龍迎新儀陶安公
 之駕在眼

都良齋

酒の味は...
 の人...
 二月の...
 秋の...
 幽...
 晉建威將軍劉伯倫嗜酒作酒德頌傳於
 世唐太子賓客白樂天亦嗜酒作酒功讚
 以繼之

酒
 の...
 酒

酒

新豐酒色清冷於鸚鵡盞之中長樂訶聲

幽咽於鳳凰管之裏

晉建威將軍劉伯倫嗜酒作酒德頌傳於

世唐太子賓客白樂天亦嗜酒作酒功讚

以繼之

公景億

葉の...
 紅...
 生計...
 茶能...
 若使...
 醉鄉...
 之民...

紅不是春

臨風抄秋樹對酒長年人醉自如霜葉雖

紅不是春

生計拋來詩是紫家園忘却酒為鄉

茶能散悶為功淺萱道忘憂得力微

若使榮期兼解醉應言四樂不言三

醉鄉氏之國四時獨誇溫和之天酒泉郡

之民一頃未知互陰之地

同
同
同
同
同
同

匡衡

閑心の也 七方里を
 出の柳を 暮らさるる
 之は 仙の心 之を
 の海に 仙の心 之を
 半に 仙の心 之を
 不て 仙の心 之を
 (心) 仙の心 之を
 本原 仙の心 之を
 人の 仙の心 之を
 仙の 仙の心 之を
 樹 仙の心 之を
 ら 仙の心 之を
 異記 仙の心 之を
 云の 仙の心 之を
 故 仙の心 之を
 舟 仙の心 之を
 仙の 仙の心 之を



仙の心 之を
 舟 仙の心 之を
 仙の 仙の心 之を

閑心の也 七方里を
 出の柳を 暮らさるる
 之は 仙の心 之を
 の海に 仙の心 之を
 半に 仙の心 之を
 不て 仙の心 之を
 (心) 仙の心 之を
 本原 仙の心 之を
 人の 仙の心 之を
 仙の 仙の心 之を
 樹 仙の心 之を
 ら 仙の心 之を
 異記 仙の心 之を
 云の 仙の心 之を
 故 仙の心 之を
 舟 仙の心 之を
 仙の 仙の心 之を

強兵滅兮有荆棘姑蕪臺之霞凍暴秦
 衰兮無虎狼感陽宮之煙片
 老鶴從來仙洞駕寒雲在昔妓樓衣散
 孤花裏露啼殘粉暮鳥栖風守廢籬良春道
 向晚簾頭生白露冷霄床底見青夫
 荒籬見露秋蘭泣深洞聞風老檜悲
 月此...
 源英明

のちとて女のけり
 船本々ひのゆき
 世も世持人の色
 御養也と捨て稽
 桂のもちてゆき
 久らふ都府
 乃叔府天宰府
 出京のまのま
 ゆいゆるおの軍
 府の橋の橋も
 つらつらつら
 ありあり
 物観世との物
 てもつらつら

舳^{フナ}於^オ東^{トウ}海^{カイ}之^ノ東^{トウ}
 都^{トウ}府^フ樓^{ロウ}總^{ソウ}看^{カン}瓦^カ色^{シキ}觀^{クワン}音^{オン}寺^ジ只^シ聽^{テイ}鐘^{ショウ}聲^{セイ}
 晦^{クワイ}跡^{ジキ}未^ミ抱^{ボウ}苔^{タイ}徑^{キョウ}月^{ツキ}避^ヒ喧^{ケン}猶^{ユウ}卧^ワ竹^{チク}窻^{ソウ}風^{フウ}
 陶^{トウ}門^{モン}跡^{ジキ}絶^{ツツ}春^{シュン}朝^{チャウ}雨^ウ燕^{エン}寢^{ニン}色^{シキ}衰^{サイ}秋^{シュウ}夜^ヤ霜^{ソウ}
 眺^{テウ}望^{バウ}
 風^{フウ}翻^{ハン}白^{ハク}浪^{ライ}花^カ千^{セン}片^ペ鴈^{ガン}點^{テン}青^{セイ}夫^フ字^ジ一^{イツ}行^{コウ}白^{ハク}
 子相公
 菅丞相
 平公卿

陶^{トウ}用^{ヨウ}明^{メイ}也
 燕^{エン}寢^{ニン}美人^{メイジン}の居
 西^{セイ}の^ノ色^{シキ}衰^{サイ}年^{ネン}
 老^{ロウ}翁^ウ暮^モて^テ秋^{シュウ}の^ノ葉^{エフ}
 夕^{セキ}光^{コウ}の^ノ西^{セイ}
 舟^{フネ}の^ノ美^{メイ}の^ノ色^{シキ}
 舟^{フネ}の^ノ美^{メイ}の^ノ色^{シキ}
 つらつらつら



号之... 平... 卷...
 の... 雅... 録...
 全の... 録...
 顔自... 録...
 の... 録...



の... 録... 録... 録...

樹... 録... 録... 録...

此花非是人間種
 瓊樹枝頭第一花
 後江撰
 此花非是人間種
 再養平臺一片霞
 管三
 丞相付執政
 季文子妾不衣帛
 魯人以為美談
 公孫弘
 身服布被
 汲黯識其多詐
 後漢書
 百里奚乞食於道
 跖穆公委以政
 甯戚子

一あやう
 金女を愛する
 賢者なる也
 使わぬ心
 金印紫綬を
 其の不才の
 痛明心の
 りるる
 こころの
 形を
 兼三万
 所深
 此の
 春保
 心は

ありきやれの
 ちのりゆけに
 仁樹天皇

詠史

燈暗數行虞氏
 賓鷹繫書秋葉
 他日遂逃秦虎
 かくいりて
 王昭君

此の
 秋の
 霜の
 露の
 月影
 胡角
 一聲

愁苦辛勤
 身化早為
 翠黛紅顏
 吹斷秋心
 霜後夢漢
 貽定是終
 數行暗淚
 孤雲外一
 點愁眉落
 月邊

江相公

出典の四言教駒五
 小不樂居其所
 秋月難磨經云
 此身如水中月
 春秋在裡莊子
 胡蝶の夢の心坎

蘇丹(戦)の時
 蘇丹(戦)の時
 蘇丹(戦)の時
 蘇丹(戦)の時
 蘇丹(戦)の時

人乃獨終一以
 蘇丹(戦)の時
 蘇丹(戦)の時
 蘇丹(戦)の時
 蘇丹(戦)の時

人間禍福思難斷世上風波老不禁
 車前驥病驚駘逸架々鷹開鳥雀高
 事々無成身也老碎卿不去欲何歸
 范蠡收青棹扁舟而逃名謝安辭功鞭狐
 雲而養志
 昇殿是象外之選也俗骨不可踏蓬萊
 之雲尚書亦天下之聖也庸才不可攀

後江相公

墓閣之月
 齡亞顏駒過三代而猶沈恨同伯鸞歌五
 噫而將去
 言下暗生消骨火咲中偷鏡刺人力
 載鬼一車何足畏棹巫三峡未為危
 楚三閭醒後何益周伯夷飢未賢
 日月之移也此心之老也

直轄

橘正通

前畫

後人

〇世

事を去るは世
 の不き事なれば
 仙遊の心も
 夢と覺るは
 ことあり
 詩書
 魏の人の心
 三代の漢の
 武の人の心
 心
 載一車此詩
 の心人の心
 ありし事

山陵の心
 やら
 楚三回楚屈
 原の事あり
 此詩の心
 世を
 人の心
 心
 心
 心

在此さうけとて
 かくては
 かくては
 かくては
 かくては
 かくては
 かくては
 かくては
 かくては
 かくては
 かくては

慶賀

劍佩曉趨雙鳳闕
 煙波夜宿一漁船
 自
 錢塘去國三千里
 一道風光任意看
 想得江南諸父老
 因君鞭撻子孫多
 同
 吏部侍郎職待中
 着緋初出紫微宮
 銀魚

腰底辭春浪
 綾鶴衣間舞曉風
 花月一窓
 交昔眠雲泣
 万里眼今窮
 省躬還恥相
 知
 久君是當初
 竹馬童
 正通

祝

嘉辰令月歡
 極萬歲千秋樂
 永央
 謝
 長生殿裏春秋富
 不老門前日月遲
 保

此の巻をよむに
 消然其の如
 一 夢は眼を
 夢の 夢の 夢の
 半くはるか
 けの けの けの
 名温の 名温の
 月の 月の
 ぬれぬれ
 ありあり
 得は 得は
 ては して
 の 聲は
 作りて 作りて
 を 國に



十市 十市
 あり あり
 貞 貞
 の 之
 の 魚
 は 夢
 如 如
 の 夢

蝸牛角上争何事
 生者必滅釋尊未免
 天人行逢五葉之月
 朝有紅顏跨世路
 羅觀秋月波中影未遁
 春花
 自骨朽郊原
 烟染盡衣來
 後世想
 後世想
 後世想

此の巻の
 夢の
 夢の
 夢の

